◇委員の紹介◇

住友化学株式会社　経理部シニアフェロー

丹　昌敏

本年 4 月に企業会計基準委員会（ASBJ）の非常勤委員に再任されました丹と申します。

今期が 2 期目となりますが、1 期目は、会計理論に基づく考え方、利用者の視点に基づく考え方、過去の会計処理に関する議論の経緯を踏まえた考え方等に関する ASBJ の事務局による様々な解説、分析に助けて頂きながら、3 年間会計基準の検討に向き合ってまいりました。前 3 年を振り返りますと従来から業務を行う中で接していた製造業に関連する経理処理だけでなく、様々な領域の取引、事象に関する経理処理や開示などの検討に携わることとなり、知識の不足や経験の不足などを痛感する場面が非常に多かったと感じております。

また、3 年前の時点では、会計基準を検討する際の視点についても、財務諸表作成者としての視点に偏った状況にあったように感じます。現在も、財務諸表作成者としての視点に重きを置いて検討に参加している点に変わりはありませんが、事務局による各論点に関する様々な側面からの分析や、バックグラウンドの異なる他の委員の皆様のコメントに接する中で、財務諸表作成者としての視点だけではなく、財務諸表利用者が求める水準とのバランス、会計理論との関係など、多方面からの視点におけるバランスについても意識するように少しずつ変わってきたように感じているところです。今後も、財務諸表作成者という立場が中心であることに変わりはありませんが、様々なバランスという点も常に頭に置いて取り組んで行くよう心掛けたいと思っています。

この 3 年間、個人としてはあっという間に時が過ぎていったように感じますが、会計基準の置かれた状況という点ではこれまで以上に大きな動きが起こっています。海外においては基本財務諸表プロジェクトが公開草案に対する意見を踏まえて検討が進んでいますし、のれんの事後の会計処理についても再検討の動きが見え始めてきています。また、サステナビリティ問題に対する情報開示に関する基準設定主体として国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が設立され、日本においてもサステナビリティ基準委員会（SSBJ）の設立に向けて SSBJ 設立準備委員会で検討が開始されました。

海外における会計基準開発の流れや、非財務情報の開示に向けた関心の高まりもある中で、企業会計の今後の方向性も意識しながら基準開発に携わっていかなければならないと思っています。国内外の事業環境が急速に変化していく中で、企業の活動について財務報

告を通して利用者に適切な情報を伝えるため、個々の会計基準としてどうあるべきなのか、他の利害関係者の方々のご意見もしっかり聞きながら考えてまいりたいと思います。

どうぞよろしくお願い致します。